



2020年11月23日

株式会社立花商店 生田 渉

(新) 週刊カカオニュース 27号

毎度お世話になります。カカオトレーダーの生田と申します。

先週のカカオニュース分（11/9-11/16）と、今週のニュース分（11/17-11/23）を合わせて配信させていただきます。

1. カカオ先物価格：過去19年間で1週内での最大の上昇率に(11/21)

カカオ先物は、西アフリカでのカカオの需要と供給の影響の中で、今週価格は反発し、過去19年間で最大の週間上昇率を記録した。

世界第2位の生産国であるガーナは、カカオの持続可能性プログラムやカカオの購入企業が豆に対してより多くの支払いをするという約束を送らせていると批判した。コートジボワールでは、トアラッサン・ワッタラ大統領と彼の主要な政治的ライバルが先週、先月の紛争中の選挙をめぐる緊張を緩和するための協議を開始。暴力は少なくとも85人の死者と数百人の負傷者を残したと、政府が発表。

カカオの先物価格は、8月以来最長の上昇である6日連続の続伸。価格も過去9ヶ月でほぼ最高水準に上昇しました。悪天候の中でガーナの生産量が今年の予測数量の80万トン割り込むかもしれないという憶測が先物価格を押し上げた。

「西アフリカの生産者にとって、短期的な供給のボトルネックにつながる可能性のあるいくつかの問題がある」とシカゴに拠点を置くハイタワー・レポートは述べた。国内の買い手=輸出業者がコートジボワールとガーナの供給に対して生活所得差(LID)を支払うことに頭を悩ませているという懸念は、「市場に短期的な供給不安を加えた」と報告書は述べた。

3月限月のためのNYカカオ価格は、1トン当たり\$2,712で金曜日の取引を終え、前日比1.8%上昇。最高値は2,746ドルに達し、2月27日以来で最高値であり、取引の出来高も最も多かった。今週の1週だけで、価格は15%も急騰し、2001年11月以来最大の週当たりの上げ幅となった。

チョコレート大手のハーシー社は、現物市場ではなく先物取引所を通じてカカオ豆を購入するという通常取り得ない手法での購買を実施した。ロンドンのR.J. オブライエン社のソフトコモディティ担当バイスプレジデント、デビッド・カトラー氏は「ハーシーがLID価格をいくらか回避し、ニューヨーク先物市場を驚かせたことで、通常の構造を完全に覆した」と述べた。ハーシーが20日（金）のNY市場先物で購入した数量は3,000ロット=3万トンのカカオ豆といわれており、この買いにより市場は勢いが増して大幅続伸となった。

補足) NYの3月限月のカカオ価格は現在USD2700付近であり、LDNは1800ポンド付近である。現物の取引価格については、LDNをベースとするコートジボワール産カカオは+300ポンド（LID含む）程度であることが多い。即ち、ドルベースで比較した際は、NY先物市場（≒南米産カカオ）は2700ドルに対して、アフリカ産（コートジ）が2100ポンド≒2,800ドル付近となり、南米産のカカオの方が割安となっている。また米国の場合は、アフリカからの船賃が割高なこともあり、NYの先物市場で南米産のカカオを買う事で、LIDの影響を少しでも減らそうとする意味が上記の背景として想定される。

2. ガーナココボード長官、LID の推進を大手企業が妨げていると批判(11/19)

ガーナとその西アフリカの隣国コートジボワールを代表し、ガーナのココボードのジョセフ・アイドゥー最高経営責任者(CEO)は木曜日、世界ココア財団の会議へのコメントにて、『西アフリカで事業を行うカカオとチョコレート会社が農民の貧困と戦う政府の試みを妨げている』と述べた。その結果、バリー・カレボーやネスレなどの企業がこれまで積極的に推進してきた持続可能な供給方法のカカオ原料を使用していると認定されてきたサステナビリティ認証スキームは今後、両国のカカオに対しては停止される可能性も出てきた。

ガーナのカカオ規制当局は、主要なカカオとチョコレート会社が現在推進している、カカオ豆が持続可能かつ倫理的に供給されていることを消費者に保証するサステナブル・カカオスキーム（具体的にはレインフォレストやフェアトレード等）を停止すると脅している。

ガーナとコートジボワールは、世界のココアの3分の2を一緒に生産し、昨年、2020/21 カカオの売り上げすべてに Living Income Differential (LID) という追加プレミアム金を付加する政策を導入し、収益は1日平均1ドル程度の収入しかない生産者の収入を上げるために使われると述べた。「(ココア/チョコレート)ブランドは、LID へのコミットメントを公然と発表しました(しかし)私たちの諜報活動によると、それとは脱線する(それ)いくつかの戦略があることを示しています」と、前述のアイドゥー長官は述べた。

「2020年12月中旬までにLIDを受け入れるのに真剣ではないと思われるブランドは、ガーナとコートジボワールのすべてのカカオ豆を Conventional Beans (=認証付きでない通常のカカオ豆) と考えなければなりません。我々はこれらのブランドの名前を公表し、公に指摘する準備ができています」と、付け加えた。コートジボワールとガーナは、コロナウイルスによる不況がチョコレートのような非主食の需要を大幅に削減したため、LID を導入して以来、2020/21 カカオのメインクロップの販売に苦慮している。

世界最大の食品会社ネスレは、コートジボワールとガーナから「通常のココア購入量」を購入する際にLIDを適切に支払っていると述べ、導入時に最初に追加料金を支払った企業の1つだと付け加えた。チョコレートメーカーのバリー・カレボーも、マーズもLIDの追加料金を支払っていると述べたが、量は明らかにしなかった。ハーシーは、「私たちのビジネスのニーズに基づいて、2020/21 カカオを購入するときにはLIDを支払う」と言いました。

「業界の一部は、近代的で持続可能なカカオサプライチェーンへの進歩を加速していますが、他の企業は十分に行っていないし、さらに速く改革する必要があります」と、マーズ社は、質問に対してメールで返答した。

補足) ある情報筋では、今年のコートジボワールとガーナの販売契約数量は、例年より50万トン程、今のところ遅れていると分析されている。これは、LIDが始まることから前年産のカカオを世界中の需要家が在庫として買い増していたこと、また、それに加えて、COVIDの影響で世界的な実需が減少している事に起因している。おそらくアイボリー、ガーナは現在の相場高を最大限利用して販売数量を稼ぎたい心理であろうと思われます。

3. NY市場のファンド勢は再度、売り越しから買い越しポジションへ転じる(11/20)

ニューヨークカカオ先物市場では、ヘッジファンド等投機筋(Managed Money)が先週、売り越しポジション(Bearish=熊の角が下を向いている事より、売りが買いよりも強い状態を示す)から、再度、買い越しポジション(Bullish=牛の角が上に上がっていることから、買いが売りよりも強い状態を示す)へ転じた。買いポジションが、売りポジションよりも6,120ロット上回り、純買いポジション(=Net long position)となっている。

- 先週は、615 ロットの純売りポジション (=売りポジションの総量-買いポジションの総量)
- 純買いポジションは、過去 3 週間で最も強気な状態
- 買いポジションの総量は 11 月 17 日までで前週より 3,291 ロット減少して、33,467 ロットとなった。買いポジションの総量は過去 3 週間で最も多い。
- 売りポジションの総量は 11 月 17 日までで前週より 3,444 ロット減少して、27,347 ロットとなった。売りポジションの総量は過去 3 週で一番少ない。

4. ファンド勢のロンドンカカオ先物も純買い越しポジションへ転じる (11/21)

ロンドンカカオ先物市場において、ヘッジファンド等投機筋 (Managed Money) はついに先週までの買い越しポジションから、今週は買いポジションの総量が 55 ロット分、売りポジションより大きくなったことで、純買いポジションとなったことが ICE 欧州先物取引所の発表しているデータから判明した。毎週発表されるこのポジションレポートの取引数字は毎週火曜日まで (今週で言えば) 11 月 17 日までの取引が含まれている。

- 先週の段階では、純売りポジションの数量は 541 ロットであった。
- 買いポジションの総量は 11 月 17 日までで、前週より 682 ロット増えて 14,191 ロットとなった。
- 買いポジションの総量は過去 3 週でもっとも多い。
- 売りポジションの総量は 11 月 17 日までで、前週より 86 ロット増加して、14,136 ロットとなった。売りポジションの総量は過去 12 週で一番高い水準。

5. ナイジェリアの 2020-21 年のカカオ収穫量は当初の推定値を 27% 上回る予想 (11/19)

- ココア協会は前回の収穫予想では 212,500 トンの生産量を予測
- 生産者は、メインクロップの 95% 程度を収穫するにつれて、病気への心配はなくなった。

ナイジェリアのココア協会によると、今シーズンのナイジェリアのカカオ作柄は、好天のため、当初の推定値を 27% も上回り、27 万トンに達する可能性がある。当初は、ブラックポッド病の蔓延により収穫数量の低下が危惧されて 7 月には、212,500 トンの収穫数量と発表されていた。

アクレの南西部のカカオ取引センターから電話で、協会の会長であるムフタウ・アボラリンワ氏は、「降雨量は十分に供給されているため、樹木の作物の発達を後押ししている」と述べた。病気への恐れは後退し、ほとんどの農民は木の上のカカオポッドの殆ど、約 95% もの収穫を終えていると述べた。

ナイジェリアは、チョコレート原料の世界有数の生産者の中で 5 番目にランクされています。西アフリカの国の 2 つのカカオの収穫量には、10 月から 12 月のメインクロップと、4 月から 6 月に成熟するよりライトクロップが含まれます。

6. ネスレ・マレーシア、7-9 月期は 14% 減益 (11/10)

スイス系食品大手のネスレ・マレーシアが 10 日発表した 7-9 月期 (第 3 四半期) 決算は、純利益が前年同期比 14% 減の 1 億 2840 万リンギ (≒32 億円) となった。ホテルやレストラン、カフェなどへの販売減少が響いた。売上高は 0.9% 減の 13 億 9000 万リンギ (≒347 億円) だった。1-9 月期の 3 四半期累計では、純利益は 22% 減の 4 億 2020 万リンギ (≒105 億円)。売上高は 3.5% 減の 40 億 4000 万リンギ (≒1010 億円)。同社は、当面は厳しい状況が続くとの予想を示したが、長期的な見通しは明るいと見た。

7. 世界のカカオ製品は成長市場で 2026 年には 302 億ドル規模へ (≒3.17 兆円) (11/16)

米国の市場調査会社、アライド・マーケット・リサーチが発表したレポートによると、世界の 카카오 製品市場は 2019 年に 245 億ドル(≒2.57 兆円)を獲得し、2026 年には 302 億ドル(≒3.17 兆円)に達すると予測されており、2019 年から 2026 年にかけての CAGR (年平均成長率)は 3.1%で成長すると分析した。このレポートは、変化する市場ダイナミクス、トップ投資ポケット、主要セグメント、バリューチェーン、競合シナリオの包括的な分析を提供しており、カカオ製品の健康的効果(高血圧の軽減、日焼け防止、慢性疲労の減少、抗酸化作用、がんや炎症などに対する効果、など)の利点が、世界の 카카오 製品市場の成長を促進するだろうと分析しています。一方、大きな価格変動と 카카오 豆の生産数量の減少は、市場の成長を妨げるリスクとして懸念されているが、カカオ生産の増加に寄与するような商業農業技術の開発が現在進んでおり、今後はその開発効果が業界に新たな機会を生み出すだろうと提言している。

8. コートジボワールの 11 月 2~8 日週のカカオ豆の到着数量は 7 万 8,655 トン(11/9)

政府筋の統計資料に詳しい人物によると、コートジボワールの農家は、先週、78,655 トンの 카카오 豆を港湾倉庫に送り込んだと報告された。1 年前の同じ週との比較では、前年は推定 84,044 トンであり、昨年より少ない数字。政府のデータによると、今年のシーズンが 10 月 1 日から始まってから 11 月 8 日までの総到着数は現在まで 492,959 トンで前年は 444,097 トンで昨年は 50,000 トン程、上回るハイペースで着荷が進んでいる。

下記の数量は、コートジボワール内で、オラムインターナショナルとカーギルのユニットなど世界大手 카카오 磨砕業者であり、最大の買い手の企業群の上社の 6 社の購入数量を示したものである。期間は 10 月 1 日から 11 月 8 日で購入数量の単位はトン。

会社名	購入数量 (t)
カーギル	73,446
アウトスパン (Olam)	68,376
Saco 社	62,917
Touton 社	32,636
SUCDEN	32 六本木, 500
その他企業	223,084
合計	492,959

9. カカオ磨砕工場の FTN ココア (在ナイジェリア) の監査法人、同社の経営難を指摘(11/12)

ナイジェリアで唯一上場している 카카오 加工会社は、430 億ナイラ(≒約 117 億円)の累積損失を累積し、2019 年末の時点で 7 億 6,480 万ナイラ(約 2 億円)の債務超過であり、同社の経営に重大な不確実性が生じていると、監査人の Bakertilly Nigeria は財務諸表に添付された注釈で述べています。

- 収益が事業運営のコストを大幅にカバーし、利益を生む体制に改善されない場合は、今後、企業として存続するしていく能力が乏しいと言わざる負えない環境にある。
- FTN はラゴスを拠点とする会社で、2019 年に 8 億 100 万ナイラ(≒約 2.1 億円)の損失、前年の 2018 年は 5 億 7300 万ナイラ(約 1.5 億)を計上した。



*写真は同社 HP より

10. ナイジェリアのカカオ農家はメインクロップの収穫がピークに。(11/12)

ナイジェリアのイバダン-ナイジェリアのココア農家は、2020-21 シーズンのメインクロップのピーク期にあり、その間に最大量の作物が販売されると、ナイジェリアのカカオ当局者とトレーダーは語った

オヨ州の州都イバダンのトレーダー、ラシディ・オモイエレ氏は、「雨も少なく天気が良い。11月と12月の収穫のピーク時にカカオ豆を適切に乾燥させるための日照が多い」と述べた。

11月/12月の収穫はナイジェリア南部のカカオ地帯の乾季の始まりから始まり、「今から来年に入る頃まで市場には良質のカカオがあります」と彼は語った。

同氏はまた、クリスマス休暇が始まる前に、いくつかのカカオの買い手、商人、輸出業者が現在、地元の粉砕向けの需要と、輸出のための需要を満たすべく、市場で活発にカカオを買い付けていると述べ、2020-21シーズンの国内総生産数量の約60%が11月と12月に収穫されると推定した。

ナイジェリアは、9月以降の好天とカカオ農場でのブラックポッドの発生が最小限であるため、2020-21シーズンに28万トンから30万トンのカカオを生産すると予想されています。ナイジェリアのカカオ協会の関係者であるジョンブル・エウエラミ氏は、「現在のピーク収穫期には、エド州でカカオがよく出てきている。主要なカカオの収穫は1月まで続くだろう」と語った。

「クリスマス休暇に行く頃には、メインクロップの2回目の収穫を行い、農家がクリスマス休暇から戻ったとき、彼らが木に持っているカカオは非常に乏しいでしょう」と彼は言い、そして、「生産者は1月に学校に戻る子供たちの学費や必要経費を支払うために最後の収穫分の在庫を売り、それでエド州のカカオ生産のメインクロップはだいたい終了するよ」と説明した。

週刊カカオニュースの配信の削除、ご依頼については、下記アドレスまでご連絡願います。

*本ニュースの相場情報は、客観的なデータの報告及び、著者の主観的な意見を述べるものであり、一切の取引の推奨を目的としたものではありません。カカオ先物、及び現物の取引におかれましては各個人様、法人様のご判断に基づいて行って頂きますようお願い致します。

株式会社 立花商店 生田 w-ikuta@tachibana-grp.co.jp